

湘南国際村活性化検討委員会 報告

平成31年2月

まえがき

湘南国際村は、昭和60年に湘南国際村基本構想、昭和63年に湘南国際村基本計画が策定され、平成6年の開村以来、国際交流拠点としての役割を果たしてきた。

その後、平成18年に湘南国際村基本計画が改訂され、土地の用途制限の見直しにより福祉施設の立地が進むなど一定の成果を得ながら、今日に至っている。

しかし、前回の基本計画の改訂から10年以上が経過した今、村内の高齢化が進んでいるほか、リーマンショック後の来村者数（入村機関による研修等の利用者数）の低迷などの課題があり、将来を見据え、改めて活性化に向けた見直しや取り組みが必要となっている。

また、「海」や「食」などの魅力を生かして三浦半島地域の活性化を図っていく上で、湘南国際村は三浦半島の中心部に位置しており、周遊の拠点となりうる場所であると考えられる。

こうした中、本検討委員会では、湘南国際村の活性化及び持続的な発展に向けて、中長期的な視点から今後の湘南国際村のあり方を検討してきた。

本報告は、今後、民間活力も活用しながら、湘南国際村ににぎわいを生み出し、三浦半島全体の活性化にもつなげていくために、その基本的な方向性などを取りまとめたものである。

神奈川県、地元市町、入村機関、住民をはじめ湘南国際村に関係する方々が、湘南国際村の活性化に向けて湘南国際村基本計画の改訂も含めた様々な見直し、取り組みを進めるに当たり、本報告がその一助となれば幸甚である。

平成31年2月
湘南国際村活性化検討委員会

目 次

1. 既定計画による湘南国際村の理念と村づくり	1
(1) 基本構想による理念・村づくりの基本方針(昭和 60 年)	1
(2) 基本計画による具体的な考え方(昭和 63 年、平成 18 年改訂)	1
2. 現行の基本計画の検証および湘南国際村の現状・課題	4
2. 1 現行の基本計画の検証	4
2. 2 湘南国際村の現状	6
(1) 人口の推移(A 地区)	6
(2) 高齢化(A 地区)	7
(3) 交通(A 地区)	8
(4) 商業施設(A 地区)	8
(5) 医療機関(A 地区)	8
(6) 来村者数(A地区、BC地区)	9
(7) 湘南国際村センター利用者数(A 地区)	10
(8) BC地区の活用(BC地区)	11
(9) 情報発信(A地区、BC地区)	12
(10) 村内外の連携(A地区)	12
2. 3 湘南国際村が抱える課題	13
(1) 村全体の課題	13
(2) 地区別の課題	13
3. 基本的な方向性(ビジョン・コンセプト)	15
4. 強化すべき機能と具体的な取組例、提案等(施策・コンテンツ)	16
4. 1 強化すべき機能	16
(1) 国際交流拠点機能(主に A 地区)	16
(2) 自然環境を生かした交流機能(主に BC 地区)	16
(3) 三浦半島における周遊拠点機能(主に A 地区)	16
(4) 魅力創出・発信機能(A 地区、BC 地区)	17
4. 2 具体的な取組例、提案等(施策・コンテンツ)	18
(1) 国際交流拠点機能(主に A 地区)	18
・ インターナショナルスクールなど、外国語教育を核とした「国際村」確立	
・ MICE 機能強化による国際交流拠点としての充実	
・ 「国際村」意識の高揚	
(2) 自然環境を生かした交流機能(主に BC 地区)	18
・ 自然を活用したレクリエーション	

・ 自然環境と芸術の共生 ・ 自然環境の活用 ・ アクティブスポーツ設備の整備 ・ 未病改善施策との連携	
(3) 三浦半島における周遊拠点機能(主に A 地区)	19
・ 交通の拠点として地域価値を向上 ・ ゴルフ場との連携	
(4) 魅力創出・発信機能(A 地区、BC 地区)	20
・ 最新技術やサービス導入で最先端の街づくり ・ 学術研究、技術交流機能の強化 ・ 「健康村」の創出	
5. まとめ	24
参考資料	27
湘南国際村活性化検討委員会 開催経過	29
湘南国際村活性化検討委員会 委員名簿	30
湘南国際村活性化検討委員会 設置要綱	31

1. 既定計画による湘南国際村の理念と村づくり

(1) 基本構想による理念・村づくりの基本方針（昭和 60 年）

県は、昭和 58 年 1 月に横須賀市、葉山町及び有識者等とともに湘南国際村の構想の検討に着手し、昭和 60 年 3 月に「湘南国際村基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定した。

この基本構想において、湘南国際村の目的と意義を「湘南国際村は、国際的視野に立脚した学術研究、人材育成、技術交流、文化交流の推進という相互に関係の深い四つの基本的目的を持ち、多様な交流を展開することにより、国際社会に貢献するとともに、地域社会の発展に寄与する多目的な滞在型の国際交流拠点とする。」と位置付けている。

(2) 基本計画による具体的な考え方（昭和 63 年、平成 18 年改訂）

当初基本計画（昭和 63 年 3 月策定）が改訂されるまでの経緯は、次のとおり。

- ・ 昭和 60 年 湘南国際村基本構想を策定
- ・ 昭和 63 年 当初の湘南国際村基本計画を策定

A 地区	「村のイメージを早期に形成するシンボル地区」
B 地区	「村全体の交流の中心地区」
C 地区	「大楠山の緑を活用した地区」

- ・ 平成元年 株式会社湘南国際村協会が設立
- ・ 平成 6 年 湘南国際村センターが完成し、湘南国際村が開村
- ・ 平成 8 年 まちづくりを将来にわたって法的に担保するため、建築物の用途の制限などを定めた地区計画を横須賀市及び葉山町がそれぞれ決定

湘南国際村の基本構想策定から 20 年以上が経過し、バブル経済の崩壊後の社会経済状況の変化や企業活動、研修施設に対する企業意識の変化等、湘南国際村を取り巻く環境が大きく変化していた。

また、市街化調整区域における大規模開発許可に基づく土地の用途制限による様々な制約がある中、研究・研修施設や商業施設の立地が進まない状況となっていた。

そこで、平成 18 年に当初の基本計画を次のとおり改訂した。

【概要】

基本構想の理念を堅持しつつも、国際交流を深めるとともに、村内に居住する住民、村で働く就業者への生活支援、あるいは生活利便性の向上に必要な新たな展開を図ることにより、湘南国際村の早期熟成と湘南国際村事業の

完了、さらに、将来にわたる国際交流拠点としての継続を目指す。

[A地区]

「村の理念を実現する地区」として新たに位置付け、B地区及びC地区で計画していた交流機能をA地区へ集約し、湘南国際村機能の充実を図るほか、既存緑地に隣接する地区を「教育・健康・福祉施設地区」とし、教育、スポーツ、医療、福祉施設等を許容するなど、土地利用計画を見直した。

[B地区・C地区]

「大楠山の緑を活用した地区」と位置付け、緑の再生と保全を図り、村内居住者や来村者が憩い、安らぎ、学び、交流するとともに、健康を育む場としての緑の空間の創造と、緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める地区とした。

こうした基本計画の改訂を受けて、横須賀市が平成19年に地区計画を変更した。

(参考) 湘南国際村の理念と村づくりの基本 (イメージ図)

① 構想 <目指す姿> = 「基本構想」 S60

- ・ 国際的視野に立脚した「学術研究」「人材育成」「技術交流」「文化交流」という相互に関係の深い四つの基本的目的を持ち、多様な交流を展開することにより、国際社会に貢献するとともに、地域社会の発展に寄与する多目的な滞在型の**国際交流拠点**とする

② 基本計画 <構想を実現するための具体的な考え方(方針)> = 当初「基本計画」 S63、「改訂基本計画」 H18

- ・ A 地区の方針 = 「湘南国際村機能の充実を図る」「国際交流拠点として**将来にわたって持続していくようなまちづくり**を目指す」
機能の位置付け 「研究・研修機能」「居住機能」「商業・業務機能」「教育・健康・福祉機能」「公共公益機能」
- ・ BC 地区の方針 = 「『大楠山の緑を活用した地区』と位置づけ、**緑の再生と保全**を図り、村内居住者や来村者が**憩い、安らぎ、学び、交流する**とともに、**健康を育む場**としての緑の空間の創造と、緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める」
機能の位置付け 「防災機能」「交流機能」

<土地・建物の枠組み> = 「地区計画」(横須賀市、葉山町)

- ・ 横須賀市 = 「研究・研修施設地区」「生活支援施設地区」「住宅地区」「商業・業務地区」「公共公益施設地区」
- ・ 葉山町 = 「研究・研修施設地区」「商業・業務施設地区」「公共公益施設地区」

2. 現行の基本計画の検証および湘南国際村の現状・課題

現行の湘南国際村基本計画は平成 18 年に改訂されたものだが、湘南国際村の活性化を検討するために、まず、現行の基本計画において、どのような成果があったのかを検証する必要がある。

その上で、湘南国際村を取り巻く現状や、湘南国際村が抱える課題を整理した。

2. 1 現行の基本計画の検証

前回（平成 18 年）の改訂後の主な歩みは、次のとおり。

[A 地区]

- ・ 基盤整備が整い、研究・研修機関等の立地が概ね完了し、多くの企業研修や学会行事、国際会議が開催
（例）湘南国際村センターにおける国際会議：平成 20～29 年の 10 年間で 260 件
- ・ 教育・健康・福祉施設等の立地が可能となった地区に、2 つの福祉施設が立地
- ・ 消防署等の立地が可能となった地区に、横須賀市消防局南消防署湘南国際村出張所が整備
- ・ 店舗等の立地が可能となった地区に、コンビニエンスストア等が立地
- ・ 店舗兼住宅等の立地が可能となった地区に、店舗兼住宅が立地
- ・ 宅地の区画が整備され、住宅の建設・分譲が開始
- ・ 自治会館が整備
- ・ 逗子駅から湘南国際村を経由して佐島方面に向かうバスが平成 20 年に新設
- ・ 横浜駅から湘南国際村を経由して横須賀方面に向かうバスが平成 18 年に新設され、その後、増便

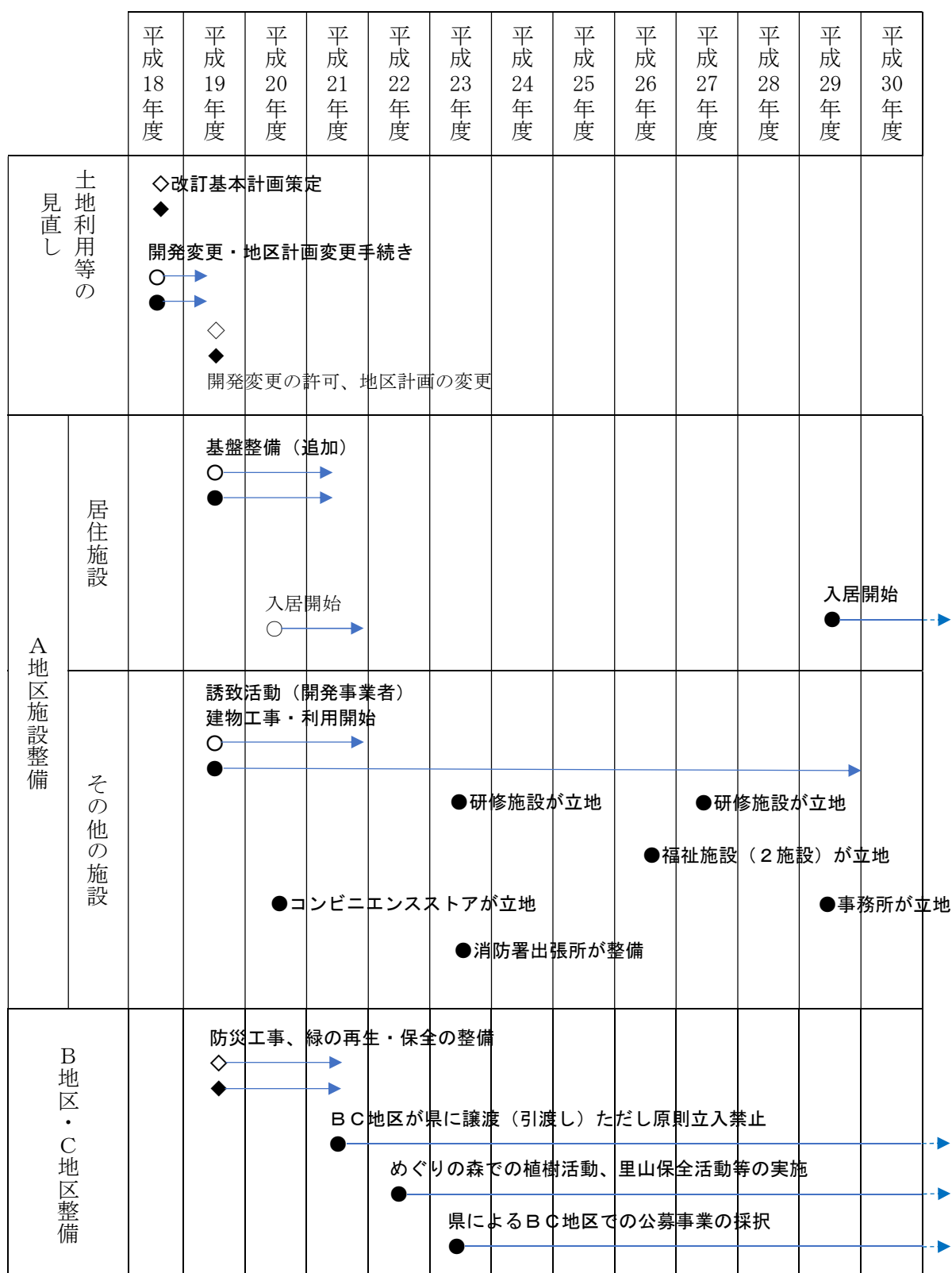
[B 地区・C 地区]

- ・ 基盤整備が整い、民間事業者から県に無償譲渡
- ・ 「緑の再生と保全、活用」の場として、植樹活動や里山保全活動などの取り組みが開始
- ・ 大楠山に至る横須賀市道が登山ルートとして整備

【施設等の立地が進んだ理由】

- ・ 平成 18 年の時点で A 地区の事業用地に空きがある中、B 地区・C 地区の研究・研修施設の建設需要が見込めなかったことから、B 地区・C 地区に予定していた機能を A 地区に集約した上で、A 地区において研修施設に限定されていた土地の用途規制を見直し、福祉施設等の立地を可能としたため。
- ・ 住民から要望の強かったバス便の改善に向けて事業者にも要望の上、調整を重ねたため。

基本計画の改訂（平成 18 年）以降における事業スケジュールとこれまでの結果

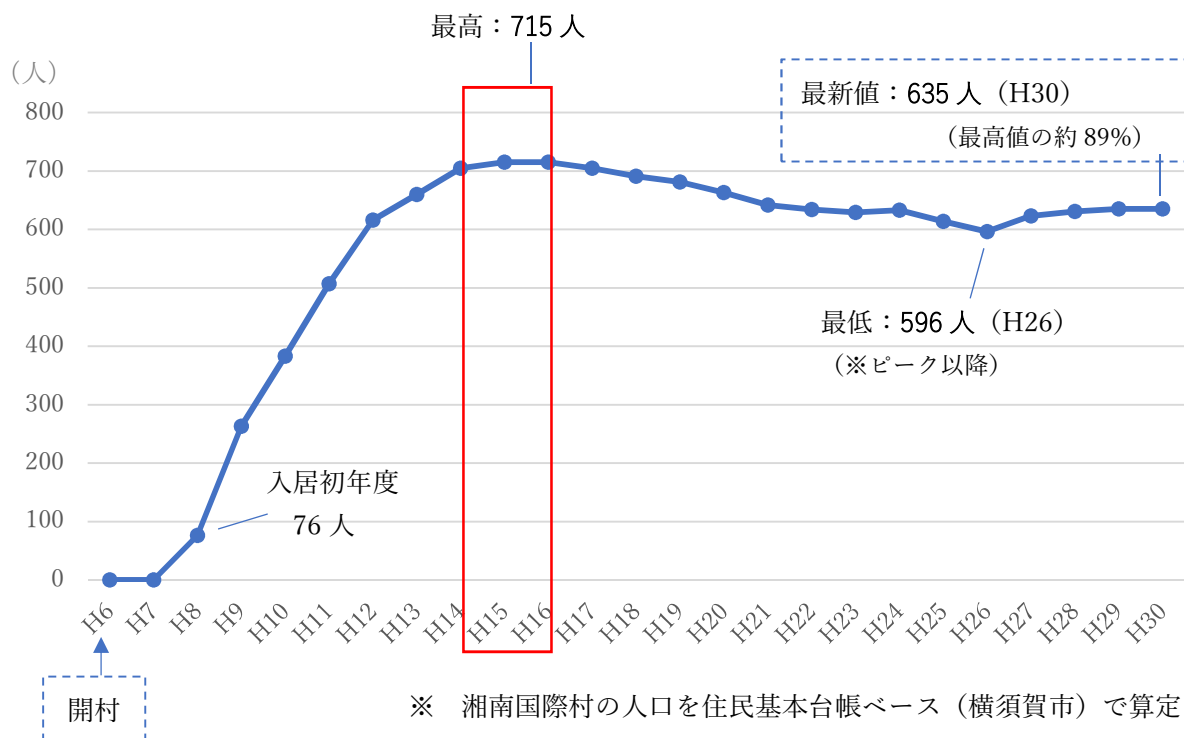


2.2 湘南国際村の現状

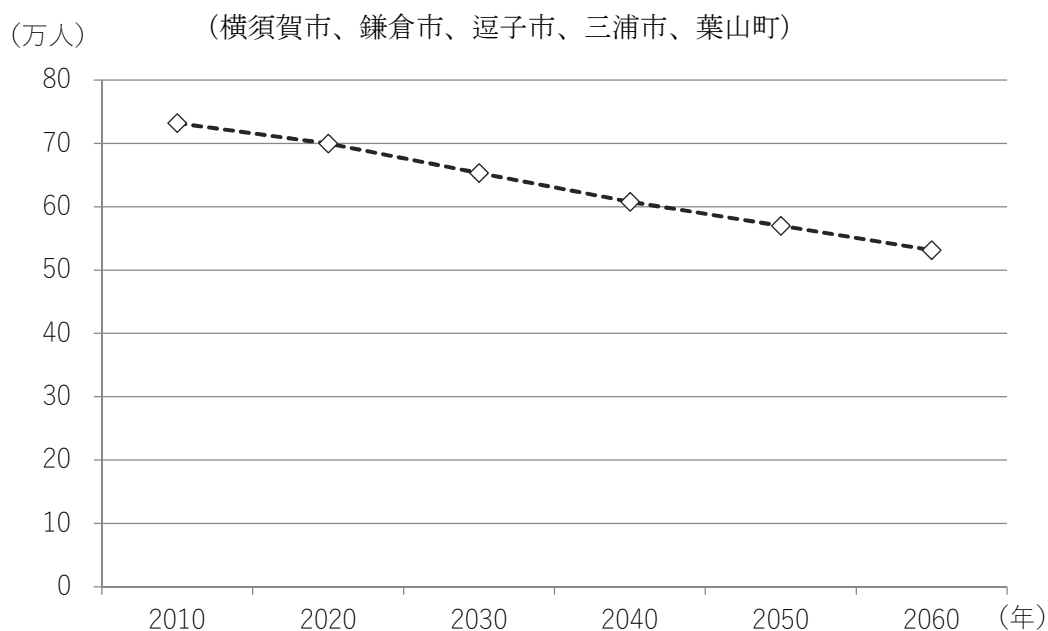
(1) 人口の推移 (A地区)

湘南国際村の人口は、平成15年、16年をピークに減少傾向にあったが、近年横ばいである。三浦半島全体では今後も減少が続くと予想されているものの、湘南国際村では増加に転じる傾向も見られる。

(参考1) 湘南国際村の人口の推移



(参考2) 三浦半島の人口の推移

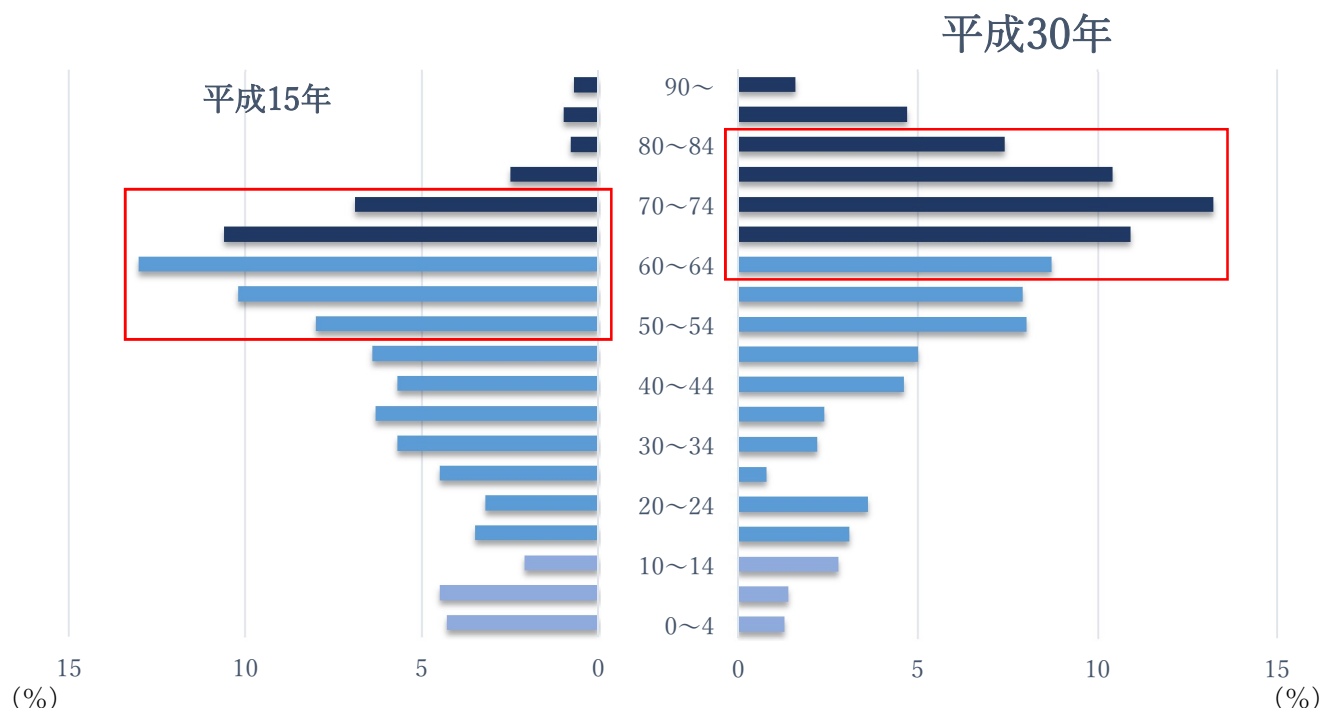


※ 平成28年3月 かながわ人口ビジョンより抜粋

(2) 高齢化 (A地区)

人口のピークだった平成15年と比べると、15年の間に高齢者の割合が増加しており、40歳代前半から下の世代の割合が減少している。

(参考3) 人口ピラミッド



※ 湘南国際村の人口を住民基本台帳ベース（横須賀市）で算定

【こうした現状に至った理由】

- 三浦半島全体で人口減少、高齢化の傾向にある中、湘南国際村では、物件の価格帯等から、そもそも入居時の年齢が高かった。また、交通が不便である等の理由で、子どもが進学・就職等を契機に家を出ること、また、高齢化による引っ越し後の入居者も高齢であることなどから、高齢化に歯止めがかからなかったと思われる。

～ 住民アンケート等の声 ～

- 国際村憲章に惹かれて住んでいる。今後とも緑あふれる国際交流拠点という村の基本的な考え方は堅持してほしい。
- 高齢者用の住宅や、福祉施設等ができればありがたい。
- 若い世代と高齢者が共生できる村になってほしい。
- 高齢化に伴って引っ越す人も多い。医療施設の完備や有料特養施設等、交通手段、買い物、公共設備が整えば、自然に恵まれた地を離れず永住したい。
- 退職した人達が多い事から、リタイアメントコミュニティ概念を取り入れ、生き生きと気概を持って日常生活が送れるよう、自治会の同好会を含む各機関からの年間予定表を住民に提供し自由に参加できるようにしてほしい。
- 通勤には不便なため、子どもが就職などを機に引っ越ししてしまう。

（３）交通 （Ａ地区）

- ・ 逗子駅から湘南国際村センターへのバスが朝夕でも１時間に２本程度で、京急汐入駅から湘南国際村センターへのバスは運行が全くない時間帯もある。
- ・ バスは住民の通勤・通学のほか、研修者、従業員の足となっているが、研修が終了する夕方の時間帯などではバスが満員状態になり、乗り切れないケースも発生していた。そのため研修所では貸切バスのチャーターやタクシー利用を行っている。
- ・ 少ない本数の中で、バスのダイヤが重なっている時間帯がある。

（４）商業施設 （Ａ地区）

- ・ 平成８年からスーパーマーケットが営業していたが、平成２５年に閉店した。その結果、湘南国際村内の商業施設はコンビニエンスストアのみとなり、日常品の買い物は、バス又は自家用車を利用して近隣のスーパーマーケットに行かざるを得ない状況となっている。

（５）医療機関 （Ａ地区）

- ・ 週一回診察していたクリニックが平成３０年３月に閉院し、これまでよりも遠くの医療機関に頼らざるを得ない状況となっている。

【こうした現状に至った理由】

- ・ 交通、商業施設、医療機関は民間事業者が行うものであり、利用者数が少ないなど事業継続あるいは拡張が困難であったためと思われる。

～ 住民アンケート等の声 ～

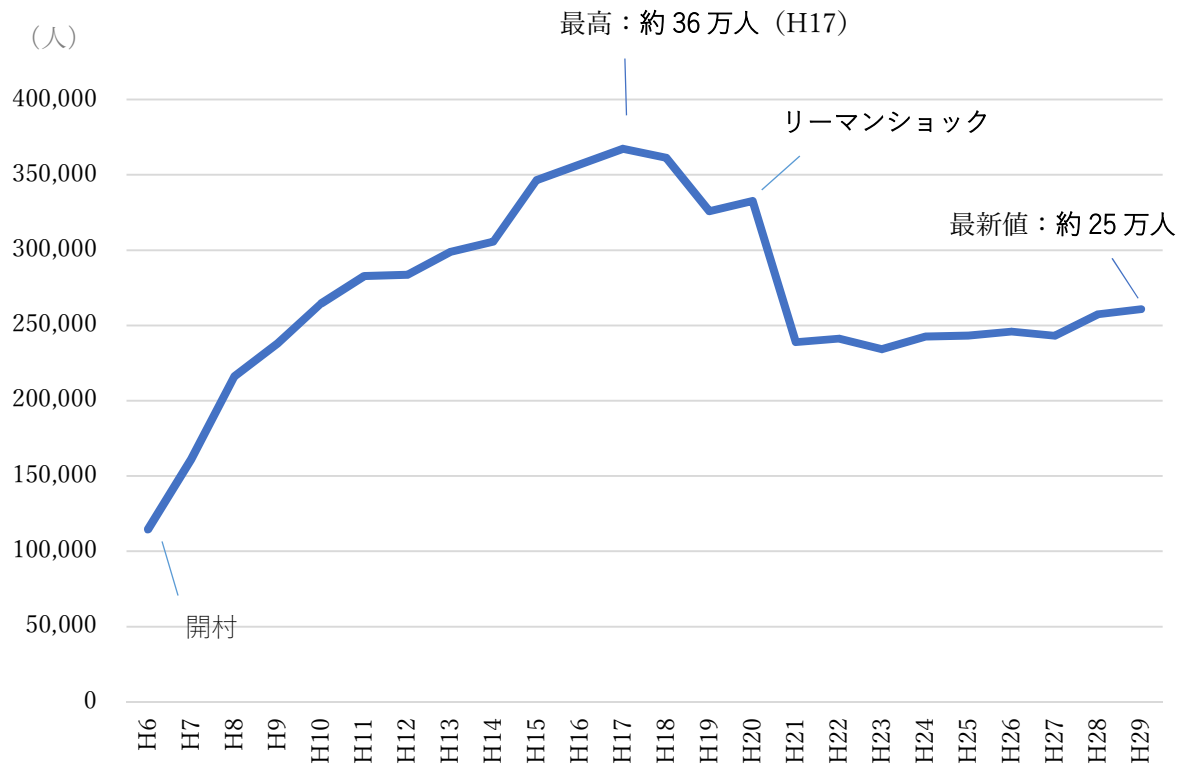
- ・ 医療施設や交通手段、買い物、公共設備が整えば、自然に恵まれたこの地を離れることなく永住したい。
- ・ 現在、歩行困難なのでバス停まで行けず、自治会館のサークルにも参加できない。村内タクシーのようなシステムがあればもっと積極的に自治会間の催しに加われるのと思う。
- ・ 市民病院に行くにもバスの乗り換えで苦勞している。
- ・ 自己の車を持たずとも、また、少々体力が落ちても、行動できる、健康寿命を伸ばすための実証実験実施地とし、各機関の参画を促す。総合先端福祉特区を提案する。

（６）来村者数 （Ａ地区、ＢＣ地区）

来村者数のピークは平成 17 年の約 36 万人だったものの、リーマンショックの後に減少し、約 25 万人前後で推移している。入村機関によると、「新規採用社員の減少などにより、研修利用が減少傾向にある」との声もある。

※ 「来村者数」とは、入村機関に対して、研修等による「施設の利用者数」を県が照会し、集計したもの。研修施設等を利用しない場合、その人数はカウントされていない（例：コンビニエンスストアの利用者、仮設駐車場のみの利用者や、大楠山へのハイキングなど）。

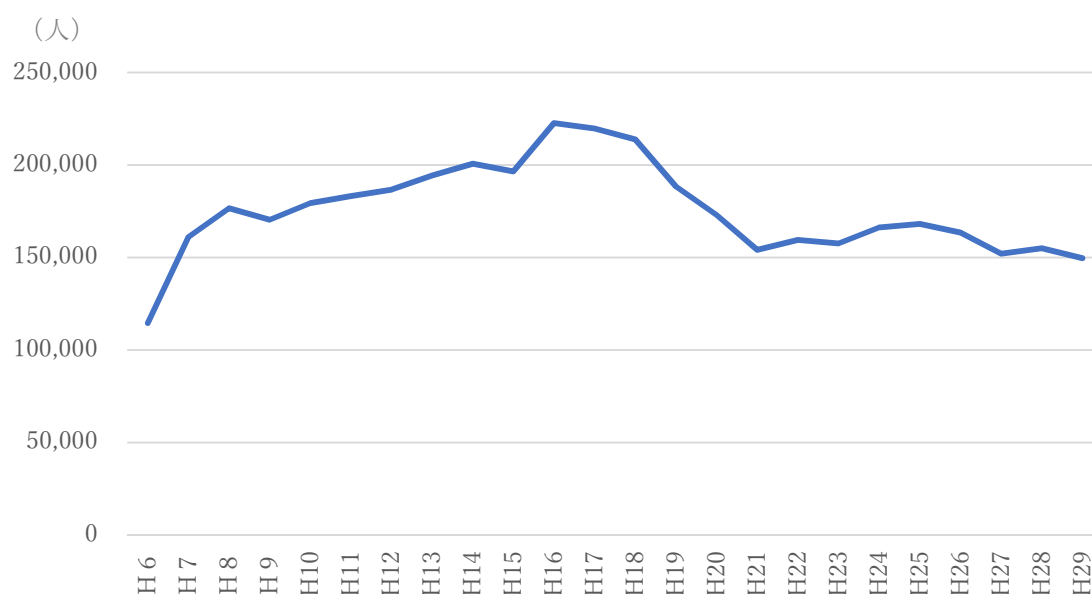
（参考４）湘南国際村の来村者数



（７）湘南国際村センター利用者数 （Ａ地区）

湘南国際村センターの利用者数がリーマンショック前に比べて減少した後、横ばい状態が続いている。住民からは、湘南国際村センターのアクティビティの一般開放や新規サービスの開始など、利用拡充に向けて様々な提案があり、そうした点が改善されれば利用が伸びるとの声がある。

（参考５）湘南国際村センターの利用者数



【こうした現状に至った理由】

- ・ 来村者数、湘南国際村センター利用者数の減少は、入村機関では自社社員の研修利用が少なくなっている施設があるほか、湘南国際村センターは「基本的には研修利用者向けの施設である」という制約があることが考えられる。

～ 住民アンケート等の声 ～

- ・ 国内外を問わず多くの人々が訪れたい、魅力ある環境を作ることが必要である。人が集まれば活性化していく。
- ・ 三浦半島観光の宿泊拠点となり得る。
- ・ 湘南国際村センターの施設をもっと住民に開放してほしい。
- ・ 子安の里にはドッグラン&カフェなど手軽なお店ができ始め、にぎわいがあるが、せっかく景観が良い上の方には何もなくて残念。葉山へ来られた方に「帰りに国際村へ寄っていこう」という何か1つでも作って頂きたい。
- ・ 村外の人々が足を運んでくる場にしないと未来がない。そのことで、様々な問題も起きるかもしれないが、大きく方向転換をしないと村としての価値も下がってしまうのではないかと。

（８）ＢＣ地区の活用 （ＢＣ地区）

植樹活動や里山保全活動などが進んでいるものの、活用が十分進んでいない状況である。

【こうした現状に至った理由】

- ・ ＢＣ地区は、アスファルト舗装された横須賀市道以外は「原則立入禁止」の場所であり、ＮＰＯ等による交流活動として植樹活動や里山保全活動等が実施されているものの、交流の場としての環境整備など、更なる検討の余地があると考えられる。

～ 住民アンケート等の声 ～

- ・ 自然を多くの人々が満喫できるようにする。
- ・ めぐりの森を自然と触れ合える場所にしてほしい。
- ・ めぐりの森の魅力の向上、植栽、散策路の整備、他へ抜ける道（前田川）の整備を進めてほしい。

(9) 情報発信 (A地区、BC地区)

湘南国際村を紹介するホームページがあるが、村の魅力を十分伝えられる状況になっておらず、更なる発信力の強化を求める声がある。

(10) 村内外の連携 (A地区)

湘南国際村の入村機関相互の連携のほか、入村機関と住民、村外機関との更なる連携を求める声がある。また、神奈川県、横須賀市、葉山町では、三浦半島魅力最大化プロジェクトや未病改善など、湘南国際村と連携可能な政策に取り組んでいるが、連携が十分に進んでいない。

【こうした現状に至った理由】

- ・ 情報発信や村内外の連携が進まなかったのは、湘南国際村が基本的には各企業の研修施設の集まりであり、各施設が自己施設で事業を完結でき、広く一般の方を呼び込む必要がなく、また、他の施設等と連携しなくても成立する施設が多いことが挙げられる。

～ 住民アンケート等の声 ～

- ・ インターネットで検索しても、村の全体像などが分からない。
- ・ 他の施設の情報が共有されていないため、お互い何をしているのか分からない。
- ・ 入村機関との連携に大きな魅力を感じている。更なる頻度の向上、内容の充実を望む。
- ・ 総合研究大学院大学をはじめとした、研究・研修施設と村民との交流を進めてほしい。

2.3 湘南国際村が抱える課題

(1) 村全体の課題

2. 2「湘南国際村の現状」を整理すると、村全体に共通して次の課題がある。

① 生活環境の向上

村の高齢化が進んでおり、交通、商業施設、医療機関などの問題の解決が求められる。(2. 2「現状」の(1)～(5)に関連)

② 交流人口の増加

新規採用社員の抑制による研修実績の減少などの影響で、来村者数が低迷しており、本来の国際交流拠点機能の充実に加え、更なる取組みにより村の利用者を増やしていくことが求められる。

(2. 2「現状」の(6)～(8)に関連)

③ 三浦半島全体との連携

交流人口の増加のためには、村内の連携だけでなく、湘南国際村がその中心部に位置する「三浦半島全体」との連携が求められる。

(2. 2「現状」の(10)に関連)

④ 神奈川県、横須賀市、葉山町の政策との連携

村内外の連携をさらに推進し、交流人口を増加させるためには、「国際交流」に限らず神奈川県、横須賀市、葉山町が行っている政策との連携が求められる。(2. 2「現状」の(10)に関連)

⑤ 中核施設である湘南国際村センターの活性化

交流人口を増加させるためには、取組みの拠点となる場所や担い手が必要であり、土地の用途制限による様々な制約があるものの、村の中核施設である湘南国際村センターの活性化が求められる。(2. 2「現状」の(7)(9)(10)に関連)

(2) 地区別の課題

A地区では、土地の用途制限による様々な制約があるものの、生活環境の改善や国際交流拠点機能の強化が必要である。

B C地区では、活用が十分進んでいない状況であり、自然環境を生かした交流機能の強化が必要である。

これらの課題に対応するため、湘南国際村の活性化及び持続的な発展に向

けて、三浦半島全体の中での位置付け、県・横須賀市・葉山町の政策との連携、民間活力の活用等の観点から、湘南国際村の 10 年後、20 年後を見据えて、中長期的な視点をもって今から対策を考えていくことが重要である。

3. 基本的な方向性(ビジョン・コンセプト)

2. 3 「湘南国際村が抱える課題」を解決するためには、湘南国際村の基本構想である「緑陰滞在型の国際交流拠点」としての理念を引き続き堅持しつつ、次のような基本的な方向性に立って、活性化を目指すべきである。

その際、村の活性化を図るためには、現在の研究・研修環境や住環境に大きな影響を及ぼさない範囲で、必要に応じ、土地の用途制限の見直しを行うことも視野に入れることも考えられる。

① 「生活環境の向上」と「交流人口の増加」

ー住む人、訪れる人、働く人を大事にー

湘南国際村の魅力を向上させると同時に、発信力を強化することで、三浦半島の他地域と連携しながら交流人口を増やす。それによって民間投資を促進し、サービスの提供や生活環境の向上につなげる、という好循環を生み出す。

② 三浦半島全体の活性化

三浦半島魅力最大化プロジェクト等の取組みと連動させ、湘南国際村ににぎわいを生み出すことで、三浦半島全体の活性化にもつなげる。

③ 神奈川県・横須賀市・葉山町の政策の連携

三浦半島魅力最大化プロジェクト等に加え、SDGs（「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」や未病改善など、県、横須賀市、葉山町が行っている政策と、村内で行う事業との連携を強化する。取組みに当たっては、産学公の連携に加え、住民による提案、行動を促進するなど、多様なプレイヤーが相互に連携協力しながら進めていく。

④ 湘南国際村センターの活用促進

湘南国際村の中核施設として、県民等の更なる利用を促進するとともに、県が所有する研究棟について、新たな視点で活用の促進を図る。

4. 強化すべき機能と具体的な取組例、提案等(施策・コンテンツ)

4. 1 強化すべき機能

2. 3 「湘南国際村が抱える課題」を踏まえ、「3. 基本的な方向性」を実現するために、今後、次の機能を強化すべきである。

(1) 国際交流拠点機能 (主にA地区)

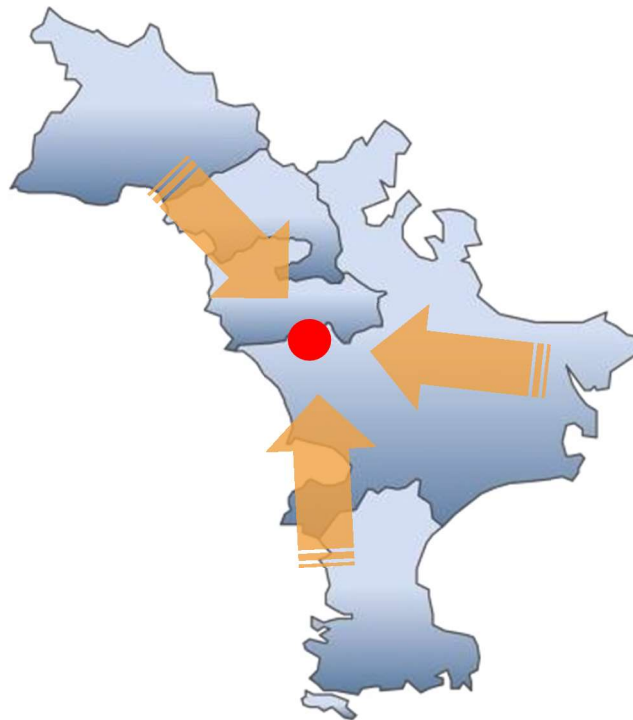
湘南国際村の基本構想に掲げた「緑陰滞在型の国際交流拠点」としての機能を一層強化するため、MICE（企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字）や外国語教育機関等の誘致を目指す。

(2) 自然環境を生かした交流機能 (主にB C地区)

引き続きB C地区の自然環境の再生と保全に取り組むとともに、自然を生かした芸術、スポーツ、レクリエーション機能を強化するなど、緑の交流機能を高め、「全体が緑豊かな公園のような村」を目指す。

(3) 三浦半島における周遊拠点機能 (主にA地区)

三浦半島の中心部に位置する強みを生かし、葉山、横須賀、逗子、鎌倉、三浦といった観光地を周遊する拠点機能の実現を目指す。



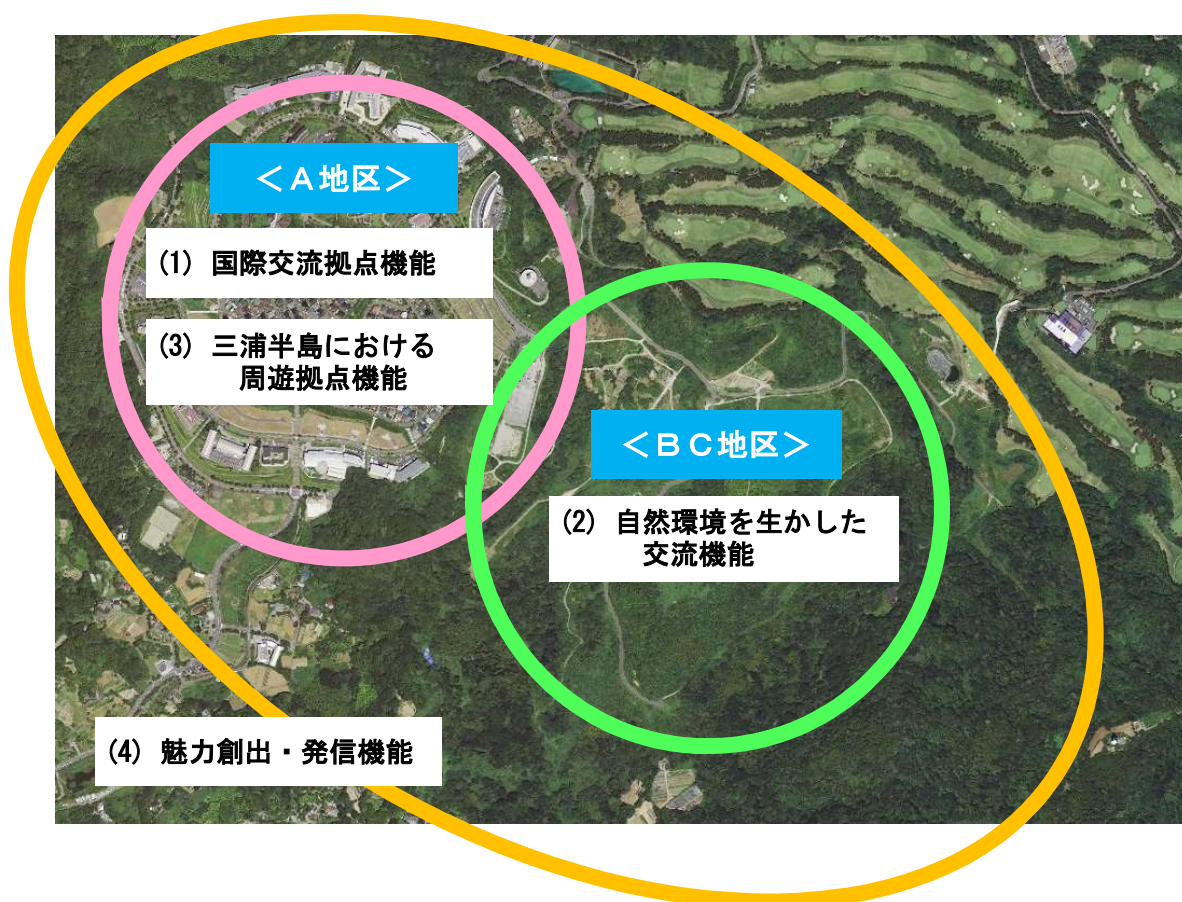
(4) 魅力創出・発信機能 (A地区、BC地区)

最先端技術やサービスの導入、技術交流の促進などにより新たな魅力の創出を目指す。

また、国際交流拠点としての魅力に加え、相模湾と富士山を臨む眺望、静謐な住環境といった湘南国際村のよさが十分に伝わるよう魅力発信機能の強化を目指す。

こうした魅力創出・情報発信機能の強化により、交流人口の増加を図るとともに、生活環境の向上につなげ、住む人、訪れる人、働く人にとってさらに魅力的な街づくりを目指す。

(参考) 地区ごとの「強化すべき機能」(イメージ図)



4. 2 具体的な取組例、提案等(施策・コンテンツ)

(1) 国際交流拠点機能 (主にA地区)

- インターナショナルスクールなど、外国語教育を核とした「国際村」確立
 - ・ インターナショナルスクール誘致
 - ・ 国際教育を含む小中高一貫教育
 - ・ 外国語のテーマパーク
 - ・ 外国語村として学生ショートステイ
 - ・ 国内で外国語体験 (ミニ留学)
- MICE機能強化による国際交流拠点としての充実
 - ・ アフターコンベンション機能
 - ・ ナイトタイムエコノミー機能
 - ・ 横浜・横須賀地区等とのMICE連携
- 「国際村」意識の高揚
 - ・ 外国語表記でのサイン看板

(2) 自然環境を生かした交流機能 (主にB C地区)

- 自然を活用したレクリエーション
 - ・ 星空学校、天体観測キャンプ
 - ・ キャンプ、収穫体験できる林間学校
 - ・ ウォーキングコースの整備
 - ・ 大楠山を中心としたハイキング、公園など、三浦半島回遊観光の一環として施設を整備。既存設備との宿泊型回遊観光も(花の公園、芝生広場、フィールドアスレチック等)
 - ・ フォレスト・アドベンチャー施設(自然体験型レクリエーション)
 - ・ グランピング施設
 - ・ 「陸」と「海」のスポーツの連携による別荘地のように余暇を過ごす場
- 自然環境と芸術の共生
 - ・ 自然+アート+健康の野外散策美術館
 - ・ アーティスト in レジデンス(宿泊棟も活用)
 - ・ アートを通した生涯学習

- 自然環境の活用
 - ・ ドッグランを併設した芝生公園
 - ・ イヤホン装着型による野外映画館
 - ・ 屋外コンサート会場
 - ・ 鳥類を呼ぶための計画的な植樹
 - ・ 自然樹木葬と市民農園で里山整備
 - ・ 日本版ギブ・キッズ・ザ・ワールド
 - ・ 週末裏山解放区
- アクティブスポーツ設備の整備
 - ・ フィールドアスレチック施設
 - ・ スケートボード施設
 - ・ BMX コース施設
 - ・ サッカーグラウンド、フットサル
 - ・ スポーツクラブ
- 未病関連施策との連携
 - ・ 森林ヨガ
 - ・ 未病の情報発信に取り組む拠点施設「ビオトピア」（大井町）との連携

<協働参加型めぐりの森づくり推進会議からのご提案・ご意見>

- ・ 用途制限の緩和による活動の拡充
- ・ めぐりの森の散策路の整備
- ・ 県の自然環境保全センター三浦半島出張所の設置

（３）三浦半島における周遊拠点機能 （主にＡ地区）

三浦半島の中心部に位置する強みを生かし、葉山、横須賀、逗子、鎌倉、三浦といった観光地を周遊する拠点機能の実現を目指す。

- 交通の拠点として地域価値を向上
 - ・ ヘリポート設置（緊急医療、観光、外国 VIP 待遇）
 - ・ 「自転車の聖地」ブランド化（自転車の駅）
 - ・ ゲートウェイ型「道の駅」での交流、情報発信（モーダルコネク
ト）
- ゴルフ場との連携
 - ・ ゴルフ場隣接のショートステイ型リゾートマンション
 - ・ ショップとゴルフツアーでリゾートヴィレッジ

- ・ 世界トップクラスのホテルを誘致し、超一流のゴルフ場リゾート & スパを目指す

(4) 魅力創出・発信機能 (A地区、BC地区)

最先端技術やサービスの導入、技術交流の促進などにより新たな魅力の創出を目指す。

また、国際交流拠点としての魅力に加え、相模湾と富士山を臨む眺望、静謐な住環境といった湘南国際村のよさが十分に伝わるよう魅力発信機能の強化を目指す。

こうした魅力創出・情報発信機能の強化により、交流人口の増加を図るとともに、生活環境の向上につなげ、住む人、訪れる人、働く人にとってさらに魅力的な街づくりを目指す。

- 最新技術やサービス導入で最先端の街づくり
 - ・ 次世代モビリティで村内移動
 - ・ 自動運転など実証実験フィールドの提供、既存機関との連携
 - ・ EV充電器
 - ・ リムジンサービス
 - ・ 自動車メンテのガレージサービス
- 学術研究、技術交流機能の強化
 - ・ 三浦半島の学術研究機関と連携
 - ・ ビジネスインキュ研究センター
 - ・ 防災とリサイクルを含む「食ラボ」
- 「健康村」の創出
 - ・ ペット用施設でアニマルセラピー
 - ・ 「道の駅」等で高齢者の働く場
 - ・ まちの健康増進センター
 - ・ C C R C (「Continuing Care Retirement Community」: 高齢者が、第二の人生を楽しみ、医療介護を必要とする時には、継続的なケアを受けることができるような地域づくり)
 - ・ シルバー産業のリビングラボ

こうした「3. 基本的な方向性」と「4. 1 強化すべき機能」「4. 2 具体的な取組例、提案等」の関連をまとめると、次のとおり整理できる。

		4.1 強化すべき機能、4.2 具体的な取組例、提案等			
		(1) 国際交流拠点 機能	(2) 自然環境を生か した交流機能	(3) 三浦半島における 周遊拠点機能	(4) 魅力創出・ 発信機能
3. 基本的な方向性	① 生活環境・交流人口	・外国語教育を核とした「国際村」確立 ・「国際村」意識の高揚	・自然を活用したレクリエーション ・自然環境と芸術の共生 ・自然環境の活用 ・アクティブスポーツ設備の整備	・交通の拠点として地域価値を向上 ・ゴルフ場との連携	・最新技術やサービス導入で最先端の街づくり ・「健康村」の創出 ・学術研究、技術交流機能の強化
	② 半島全体の活性化	・MICE機能の強化による国際交流拠点としての充実	・三浦半島内の他の自然環境活用の取組みとの連携	・三浦半島魅力最大化プロジェクトに位置付けられた交流人口増加策との連携	・学術研究、技術交流機能の強化
	③ 県市町の政策連携	・MICE機能の強化による国際交流拠点としての充実	・未病関連施策との連携	・三浦半島魅力最大化プロジェクトに位置付けられた交流人口増加策との連携	・三浦半島魅力最大化プロジェクトの「三浦半島ライフ」での魅力向上策や、SDGs、未病改善などの取組みとの連携
	④ センターの活用促進	・MICE誘致の強化	・交流人口の増加に伴う宿泊需要への対応	・交流人口の増加に伴う宿泊需要への対応	・最新技術やサービス導入で最先端の街づくり ・「健康村」の創出 ・学術研究、技術交流機能の強化

(参考) 課題、コンセプト、具体案の整理

1. 既定計画による湘南国際村の理念と村づくり

- (1) **基本構想** <目指すすがた> = 「基本構想」 S60 「地域社会の発展に寄与する多目的な滞在型の**国際交流拠点**」
- (2) **基本計画** <構想を実現するための具体的な考え方(方針)> = 当初「基本計画」 S63、「改訂基本計画」 H18
- ・ A地区の方針 = 「国際交流拠点として**将来にわたって持続していくようなまちづくり**を目指す」 (機能) 研究・研修 居住 商業・業務 教育・健康・福祉 公共公益
 - ・ B C地区の方針 = 「**緑の再生と保全**を図り、村内居住者や来村者が**憩い、安らぎ、学び、交流する／健康を育む場**としての緑の空間の創造と、
緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める」 (機能) 防災 交流

2. 現行の基本計画の検証および湘南国際村の現状・課題

2.1 現行の基本計画の検証

<現行の基本計画の進捗状況のチェック>

- (1) A地区には福祉施設等も立地
- (2) B C地区は植樹活動、里山保全活動等も進展

2.2 湘南国際村の現状

- | | |
|-----------------|----------------------|
| (1) 人口の推移 (A地区) | (6) 来村者数 (A地区、B C地区) |
| (2) 高齢化 (A地区) | (7) センター利用者数 (A地区) |
| (3) 交通 (A地区) | (8) B C地区の活用 (B C地区) |
| (4) 商業施設 (A地区) | (9) 情報発信 (A地区、B C地区) |
| (5) 医療機関 (A地区) | (10) 村内外の連携 (A地区) |

<住民の声>

「終の棲家」
「若い世代が暮らせる街」
にするため、
どう取り組むか

2.3 湘南国際村が抱える課題

(1) 村全体の課題

- ① 生活環境の向上 (2.2「現状」の(1)～(5)に関連)
- ② 交流人口の増加 (2.2「現状」の(6)～(8)に関連)
- ③ 三浦半島全体との連携 (2.2「現状」の(10)に関連)
- ④ 神奈川県、横須賀市、葉山町の政策との連携 (2.2「現状」の(10)に関連)
- ⑤ 中核施設である湘南国際村センターの活性化 (2.2「現状」の(7)(9)(10)に関連)

(2) 地区別の課題

- ・ A地区：生活環境の改善、国際交流拠点機能の強化
- ・ B C地区：自然環境を生かした交流機能の強化

<時間軸>

【中長期的】
オリンピック以降
【短期的】
オリンピックまで

3. 基本的な方向性(ビジョン・コンセプト) … 2.3(1)「村全体の課題」を解決するための、「基本的な方向性」

- | | |
|--|-----------------|
| ①「生活環境の向上」と「交流人口の増加」－住む人、訪れる人、働く人を大事に－ | ③県・市・町の政策の連携 |
| ②三浦半島全体の活性化 | ④湘南国際村センターの活用促進 |

4. 強化すべき機能と具体的な取組例、提案等（施策・コンテンツ）

4.1 強化すべき機能 ・ ・ 2.3 の「課題」（村全体・地区別）を踏まえ、3. の「基本的な方向性」を実現するための、「強化すべき機能」

(1) 国際交流拠点機能

（主にA地区）

(2) 自然環境を生かした交流機能

（主にB C地区）

(3) 三浦半島における周遊拠点機能

（主にA地区）

(4) 魅力創出・発信機能

（A地区、B C地区）

4.2 具体的な取組例、提案等（施策・コンテンツ）

インターナショナルスクールなど、 外国語教育を核とした「国際村」確立

- ・ インターナショナルスクール誘致
- ・ 国際教育を含む小中高一貫教育
- ・ 外国語のテーマパーク
- ・ 外国語村として学生ショートステイ
- ・ 国内で外国語体験（ミニ留学）

MICE 機能強化による国際交流拠点 としての充実

- ・ アフターコンベンション機能
- ・ ナイトタイムエコノミー機能
- ・ 横浜・横須賀地区等とのMICE連携

「国際村」意識の高揚

- ・ 外国語表記でのサイン看板

自然を活用したレクリエーション

- ・ 星空学校、天体観測キャンプ
- ・ キャンプ、収穫体験できる林間学校
- ・ ウォーキングコースの整備
- ・ 大楠山を中心としたハイキング、公園など、三浦半島回遊観光の一環として施設を整備。既存設備との宿泊型回遊観光も（花の公園、芝生広場、フィールドアスレチック等）
- ・ フォレスト・アドベンチャー施設（自然体験型レクリエーション）
- ・ グランピング施設
- ・ 「陸」と「海」のスポーツの連携による別荘地のように余暇を過ごす場

自然環境と芸術の共生

- ・ 自然＋アート＋健康の野外散策美術館
- ・ アーティスト in レジデンス（宿泊棟も活用）
- ・ アートを通じた生涯学習

自然環境の活用

- ・ ドッグランを併設した芝生公園
- ・ イヤホン装着型による野外映画館
- ・ 屋外コンサート会場
- ・ 鳥類を呼ぶための計画的な植樹
- ・ 自然樹木葬と市民農園で里山整備
- ・ 日本版ギブ・キッズ・ザ・ワールド
- ・ 週末裏山解放区

交通の拠点として地域価値を向上

- ・ ヘリポート設置（緊急医療、観光、外国VIP待遇）
- ・ 「自転車の聖地」ブランド化（自転車の駅）
- ・ ゲートウェイ型「道の駅」での交流、情報発信（モーダルコネクト）

ゴルフ場との連携

- ・ ゴルフ場隣接のショートステイ型リゾートマンション
- ・ ショップとゴルフツアーでリゾートヴィレッジ
- ・ 世界トップクラスのホテルを誘致し、超一流のゴルフ場リゾート&スパを目指す

アクティブスポーツ設備の整備

- ・ フィールドアスレチック施設
- ・ スケートボード施設
- ・ BMX コース施設
- ・ サッカーグラウンド、フットサル
- ・ スポーツクラブ

最新技術やサービス導入で 最先端の街づくり

- ・ 次世代モビリティで村内移動
- ・ 自動運転など実証実験フィールドの提供、既存機関との連携
- ・ EV充電器
- ・ リムジンサービス
- ・ 自動車メンテのガレージサービス

学術研究、技術交流機能の強化

- ・ 三浦半島の学術研究機関と連携
- ・ ビジネスインキュベーションセンター
- ・ 防災とリサイクルを含む「食ラボ」

「健康村」の創出

- ・ ペット用施設でアニマルセラピー
- ・ 「道の駅」等で高齢者の働く場
- ・ まちの健康増進センター
- ・ CCRC
- ・ シルバー産業のリビングラボ

未病関連施策との連携

- ・ 森林ヨガ
- ・ 未病の情報発信に取り組む拠点施設「ビオトピア」（大井町）との連携

5. まとめ

委員会では、湘南国際村（以下、国際村）のこれからの方向性について、中長期的な視点での検討を行った。国際村に関する今までの取り組み経緯、県による住民や入村機関との意見交換やアンケート、各種データを通じた現状認識と課題、それらを基にした、これからのいくつかの方向性とその方向性を具体化する施策例について提案整理し示すことができた。特に、概念で止まりがちな中長期的な視点での方向性に対し、4章にあるように、各委員が専門性を生かし、方向性を実現する具体的プランを示したことは、価値のあることと考えている。

国際村の人口減少、高齢化、来村者数の減少等を課題要因とする、交通・商業施設・医療機関など生活環境の向上に関しては、交流人口増加を目的とした民間投資の促進を図り、その一環として、住民サービスの提供や生活環境の向上につなげる、という好循環を作り上げることが提案された。

交流人口増加に関しては、国際村の三浦半島における地勢的な利点を活かし、三浦半島全体との連携や、県として進める未病関連施策への積極的な参加、国際村の新しい魅力を作り出すための土地利用に関する規制緩和など、新たな方向性の実現に向けた行政の関与と多様な民間資本の活用が示された。

また、国際村が横須賀市・葉山町に跨ること、三浦半島連携や未病関連施策との連携などを考慮すれば、県を含めた行政との連携に加え、住民自らの将来に向けた自発的な活動とそれを支える行政の姿を具体化していく必要性も示された。

一方、本報告書には示されていない（※）が、委員からは、方向性を実現する施策の絞り込みに際し、具体的施策案毎に、対象となる課題事象（例えば、来村者数の減少など）への踏みこんだ分析が必要であること、直近の課題対応から基本計画の改訂、あるいは、将来の三浦半島中央道路の建設計画など、短中長期的な時間軸での変化を考慮しつつ、そこに展開されるさまざまな施策に柔軟に加速的に取り組む必要があること、などの指摘もいただいた。

（※過去の委員会議事録をご確認いただきたい

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/y2w/cnt/f5962/p1229857.html> 等）

以上を総括し、委員会として、以下のように取りまとめる。

- 1) 交流人口が増加し国際村が活性化することを目的に、現在の基本的理念を活かしつつ、三浦半島との連携、県全体に広がる未病関連施策との連携など、国際村が国際村というエリアを超えた開かれた地域となる施策の実現を目指していただきたい。

- 2) その実現のためには、県・市・町・住民が個別に価値観を持ち行動するのではなく、それぞれが課題解決に向けて積極性を持って活動しながら、それぞれの立場を尊重し協調し、情報を共有し合うことが極めて重要である。具体化に向け参加する民間プレイヤー（企業など）も考慮する必要がある。そのためには、求める未来の実現に向け、全てのプレイヤーが協力し合う意識を持ち、価値観を共有できるプラットフォームを作り上げることが重要と考えており、その実現を期待したい。
- 3) 課題解決に向けた施策の選定に関しては、候補となる施策を前提とした更なる原因分析が必要となる可能性がある。また、候補となる施策の未来動向予測も求められる。将来に向けた加速的な活動を望む一方、施策ごとに丁寧な対応を取っていただくようお願いしたい。

委員会として、本報告書が終点ではなく、国際村の次へとつながる「基本計画の改訂」に向けた起点であると委員一同認識していることを追記させていただく。

最後ではあるが、委員会の推進にあたり、湘南国際村住民各位・入村企業各位の絶大なご協力があった。また、委員会と国際村関係者との橋渡しに県の丁寧な対応と気配りがあった。各位に謝意を表します。

以 上

(裏面 白紙)

参 考 資 料

(裏面 白紙)

湘南国際村活性化検討委員会 開催経過

回数	日時	主な議題、内容
第1回	平成30年3月29日	今後の検討の進め方等
第2回	平成30年4月23日	湘南国際村の現状と課題等 (湘南国際村センター及びA地区、 BC地区を視察)
第3回	平成30年5月9日	各委員から具体案を提案
第4回	平成30年5月24日	各委員の具体案の整理
第5回	平成30年7月18日	住民等との意見交換の結果 課題、コンセプト、具体案の整理 住民アンケート
第6回	平成30年8月31日	住民アンケート結果
第7回	平成30年10月30日	湘南国際村の活性化について
第8回	平成30年11月20日	住民等との意見交換の結果 湘南国際村の活性化について
第9回	平成31年1月30日	検討委員会報告(案)

湘南国際村活性化検討委員会 委員名簿

(学識者)

(敬称略)

氏 名	所属・役職等
高橋 毅	(一財) 電力中央研究所 研究アドバイザー
秋山 美紀	慶応義塾大学環境情報学部 教授
伊藤 隆治	和光大学経済経営学部経済学科 教授

(有識者)

氏 名	所属・役職等
野崎 秀則	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長
倉橋 隆行	株式会社シー・エフ・ネッツ 代表取締役
河井 保博	日経BP総研 クリーンテックラボ所長
矢野 寛	株式会社横浜銀行 地域戦略部長
島 由紀子	京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 三浦半島事業開発部長
宮下 真衣子	株式会社リクルートホールディングス 経営企画本部コーポレートコミュニケーションPR部

(商工団体・行政機関)

氏 名	所属・役職等
菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
石井 宏一	葉山町商工会事務局長
鵜飼 進	横須賀市政策推進部政策推進課長
町田 伸	葉山町政策財政部政策課長

(住民代表)

氏 名	所属・役職等
大阿久 誠	湘南国際村自治会 会長

湘南国際村活性化検討委員会 設置要綱

(設置目的)

第1条 湘南国際村の活性化及び持続的な発展に向けて、三浦半島全体の中での位置付け、県・横須賀市・葉山町の政策との連携、民間活力の活用等の観点から今後の湘南国際村のあり方を検討するため、湘南国際村活性化検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 湘南国際村のあり方の検討
- (2) その他前条の目的を達成するために必要と認められる事項

(組織)

第3条 検討委員会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

2 委員の任期は、検討委員会設置の日から平成31年3月31日までとする。

(委員長)

第4条 検討委員会に、委員長1人を置く。

- 2 委員長は、構成員の互選により定める。
- 3 委員長は、検討委員会における意見を取りまとめる。
- 4 委員長が不在のときは、あらかじめ委員長が指名する者が代理する。

(会議)

第5条 検討委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、検討委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 検討委員会の事務局は、神奈川県政策局自治振興部地域政策課に置く。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成30年3月29日から施行する。

この規約は、平成30年8月31日から施行する。

(別表)

学識者（まちづくり関係）
学識者（まちづくり関係）
学識者（まちづくり関係）
有識者（コンサルタント）
有識者（コンサルタント）
有識者（メディア部門）
有識者（金融部門）
有識者（交通部門）
有識者（観光部門）
横須賀商工会議所
葉山町商工会
横須賀市
葉山町
住民代表

(事務局)

神奈川県
